

命と暮らしを守るために

——2026年熊本地震

被災現場からの報告と緊急支援の訴え

■ 県連合より党員の皆さまへ

震災発生直後より、県連合は該当支部と連携を取り、まずは飲料水の配布活動をはじめとする緊急支援に取り組んでいます。また、福島党首・橋村副党首とともに被害実態の迅速な確認を進めています。

各地のボランティア参加につきましては、党員の方々それぞれの置かれた状況・ご事情の中でご判断をお願いいたします。

今後の復旧状況に応じ、例えば「3区支部連合で〇〇支援活動を行ってほしい」といった要請につきましては、該当支部と密に打ち合わせを行ったうえで、必要に応じて発信してまいります。

【現場報告】党中央・県連合による現地視察と支援行動

◆ 福島みずほ党首 視察報告

「避難所の待遇改善、暑さ対策、

災害関連死をゼロに」

熊本市内、宇城市、八代市などの被災現場を回り、被災された方々の声を聞きました。現場では「電気は通ったが水がなく困っている」「家の倒壊や損壊、障害などの理由で避難所に行きにくい」といった深刻な課題が寄せられています。また、八代市では被災した鉄道や市役所などを確認しました。

罹災証明書のオンライン受付についても、高齢者が対応できるか懸念されます。水などの復旧と避難所の待遇改善、熱中

症を防ぐ暑さ対策、そして災害関連死を失くしていくことが急務です。介護ケアマネジャーの法定研修延期など、介護に専念できる体制づくりを働きかけています。今後は仮設住宅や二重ローン問題、障害者・女性・外国人・ペット同伴など、取り残されがちな声に寄り添った提言を続けてまいります。



福島みずほ党首の
Faceブックから



◆ 橋村副党首 現場ルポ(八代市にて)
「10年前の痛恨を繰り返すな
命をつなぐ『地域の絆』と
公助』の在り方」

障害のある子の母という立場から、八代市の障害者団体現地調査に参加しました。

一人暮らしの障害当事者のお宅では、電気は来ているもののポンプが壊れ、水がない状態でした。私の顔を見て涙をいっぱいに溜め、「ありがとう」と言われた姿に、たった一人でどれほどの恐怖と心細さに耐えてこられたかと胸が締め付けられました。

10年前の熊本地震でも、避難所で「騒がしい」と肩身の狭い思いをし、壊れた我が家に戻らざるを得なかった障害当事者やご家族が多くいました。行政が「自己責任」と切り捨てるなか、立ち上がったのが「被災地障害者センターくまもと」でした。今回も同じ悲劇を繰り返してはなりません。防災でよく言われる「自助・共助・公助」。しかし、これでは自分で動ける人しか生き残れません。私が以

前地元で企画した避難訓練では、歩行が難しい方へ車椅子やリヤカーを出して迎えに行き、久しぶりの再会と笑顔が生まれました。途切れかけた地域の繋がりを取り戻すことこそが、命を守る「共助」になります。そして行政(公助)は、その手から零れ落ちそうな人々に真っ先に手を差し伸べる存在でなければなりません。



障害当事者団体と
八代の福祉事業所で
状況を把握する橋村副党首

【支援のお願い】

2026年熊本地震 支援金ご協力の呼びかけ

被災者支援、物資調達、避難所環境改善などの取り組みを迅速かつ継続的に推進するため、皆さまからの温かい支援金を募集しております。救援活動の輪を広げるため、党员・支持者の皆さまのご協力を心よりお願い申し上げます。

支援金口座・詳細情報はこちら（社民党全国連合HP）

<https://sdp.or.jp/information/kumamoto-2/>

【郵便振替】00180-4-602982 口座名：社民党・災害救援カンパ

（*通信欄に「熊本」とお書きください）。

【ゆうちょ銀行】支店：〇一九（ゼロイチキュー）店

口座番号：0602982 名義：社民党・災害救援カンパ

（*メッセージ欄に「熊本」とご記入ください）